

2018

数字から見る
日本

今月の提案 Vol.59

東京で豪雨災害が起きた場合、 江東5区の9割以上が浸水!?

— 2週間以上水が引かず、約250万人が域外避難に

今年の夏は猛暑、酷暑もひどかったが、一方で豪雨や台風による水害も例年にない状況であった。

一週間の内に5つの台風が発生したかと思えば、25年ぶりの大型台風21号によって関西国際空港が水没するなど、各地で大きな被害が発生した。さらには9月6日の未明には北海道で震度7という大きな地震が発生、北海道中のインフラが一時マヒするという、まさに災害列島という感さえる。

7月に発生した西日本豪雨災害（平成30年7月豪雨）では、227人の方々が尊い命を亡くされ、町全体が水没するなど甚大な豪雨災害となった。農林水産省によると農林水産業関連の被害額が約2455億円に上った。

首都・東京においてもゲリラ豪雨や落雷によって停電やマンホールから水が噴き出すなどという事態も発生した。

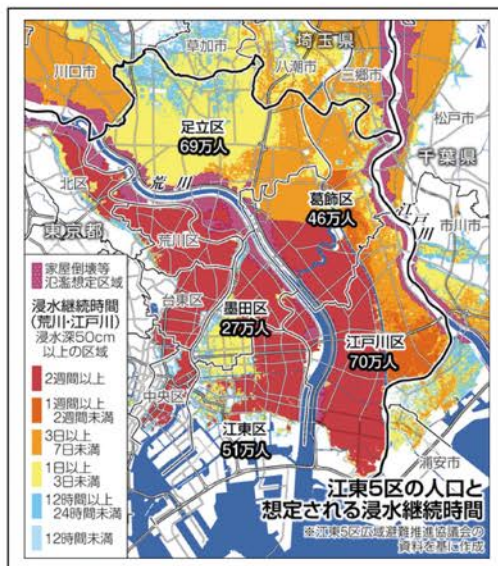
しかし、仮に西日本豪雨災害のような状況が東京を襲った場合、もっと恐ろしい状況となるという予測がある。それは東京での河川氾濫に関して荒川下流河川事務所が作成し話題となった映像である。フィクションドキュメンタリー『荒川氾濫』というタイトルでネット上で公開され、YouTube等でも閲覧出来る。

これは3日間で降水量500mmの豪雨があり、荒川上流で堤防が決壊した場合のシミュレーションをドキュメンタリータッチで描いたモノである。荒川流域をはじめとして、都内中央区や港区にも影響を及ぼし、首都機能がマヒするというモノである。

東京東部低地帯に位置する江東5区（墨田区・江東区・足立区・葛飾区・江戸川区）と呼ばれる地帯は高度経済成長時代に地下水を吸い上げすぎたために地盤沈下が加速し、海拔ゼロメートル地帯が広がっている。まさに、前述の事態が発生した場合、大きな被害を受ける地域である。

平成27年10月に大規模水害時の避難対応を検討することを目的として「江東5区大規模水害対策協議会」が設置され、平成28年8月に「江東5区大規模水害避難等対応方針」としてとりまとめられた。この報告によると江東5区での避難者は、250万人発生し、しかも都内だけでは避難出来ず、埼玉県をはじめとする関東近県にも避難しなければならない事態が想定されている。

江東5区の人口と想定される浸水継続時間



出典：東京新聞2018年8月22日付 夕刊より

美楽からの一言

フィクションドキュメンタリー『荒川氾濫』では3日間で降水量500mmの豪雨の設定である。7月に発生した西日本豪雨災害では、6月28日0時から7月8日9時までで10日と9時間の総降水量はところにより四国地方で1800mmであった。3日間ではないが、首都機能がマヒすると予測された値の3倍以上の降水量が実際に発生した訳である。首都圏で西日本豪雨のような災害が起こった場合の備えは急務とさえいえる。